

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671400253		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド平城山・山城(平城山)		
所在地	京都府木津川市梅美台2丁目1-1		
自己評価作成日	令和2年5月20日	評価結果市町村受理日	令和2年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JinyosyoCd=2671400253-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第二の我が家を目指すべく、各個人様にご利用者様に出来る事をお手伝いしてもらったり、一緒に料理等もしています。今年度のホームの目標として、レクに力を入れていますが、コロナウィルスの感染拡大防止の為に外出等控えている為、施設内では毎日レクや体操に取り組んでいます。また、ご家族やご親戚等、面会も遠慮して頂いている為、電話で話して頂いたり、ガラス越しの面会等ご家族様に安心して頂けるように工夫しています。今年の2月(コロナウィルスの感染拡大前)までは近所のスーパーまで買い物に出掛けたり、昨年は地域の集会場を借りて敬老祭を行ったり、年に2回の自治会の掃除や夏祭り等も参加させて頂いており、地域の交流も行う様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域との連携について理念に謳い、地域との関わりを大切にし、夏祭りや年2回の清掃活動への参加の他、地域の保育園との交流や中学生の職場体験の受け入れ、コーラスや舞踊、アロマセラピー等のボランティアの来訪等地域との良好な関係を築いています。食事は三食共ホームで作っており、利用者の好みや旬の物、行事食等考慮しながら献立を立て、利用者にも野菜の下拵え等できることに携わってもらい一緒に作っています。菜園で収穫した胡瓜やなす、オクラ等が食卓に上がることもあり、誕生日には食べたい物を聞き外食したり、うなぎ丼などを買いに行くこともあり、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。職員間の関係性は良好で日々意見を出し合い、プリセブター制度を導入し職員に細かく行き届いた指導を行いケアの向上に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 自分らしい安心できる生活をお手伝いします。 2. 入居者の尊厳を守ります。 3. 地域との連携に努めます。 上記運営理念を玄関先・台所に掲げ、目につくようにして実践する様心掛けている。	ホーム独自の理念は玄関や台所に掲示すると共に新任入職時には理念の内容等について説明しています。職員はその人らしさや安心・尊厳を意識しながら日々の支援に当たり実践に繋げており、介護計画作成時にも理念を意識しながら話し合い計画にも反映させています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員になり、年に2回の地域清掃に参加、夏祭りでも出店協力を行い交流するように心掛けている。	自治会に加入しており、地域の夏祭りや清掃活動等に参加したり、併設の同法人の保育所や近隣の保育所との交流の他、中学生の職場体験学習の受け入れも行っていきます。日頃から行事等の打ち合わせ等で自治会長が訪問してくれたり、ホームの敬老祭等にはコーラスや舞踊、南京玉すだれ等のボランティアの来訪や年2回アロマセラピーの来訪もあるなど、地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護の相談や見学を受け入れている。また、近所の中学校の職場体験の受け入れを行い、認知症という病気の説明をしたり、触れ合いをしてもらい、理解を深めていただける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2金曜日に開催し、毎月の行事等の活動報告等、行っている。また、出席頂いた方のご意見等をお聞きし、サービス向上に繋がられる様、努めている。(3・5月はコロナ感染拡大防止の為、書面にて開催)	会議は家族や利用者、地域代表、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て隔月に開催しており、コロナ禍では書面での開催としています。利用者状況や身体拘束、行事等について報告し意見交換を行い、地域の情報や災害時の避難、防災についてなどのアドバイスをもらうこともあり有意義な会議となっています。議事録は玄関に置き、閲覧できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢介護課とは、何かあった際に連絡を取り、協力関係を築く様心掛けている。また、事業所の現状の把握や高齢介護課からも連絡を下さったりしている。	運営推進会議には市職員の参加もありホームの現状把握をしてもらっています。書類上の手続き等で窓口を訪れたり、わからないことや何かあれば電話やメールでやり取りをしています。介護保険についてやその他の研修案内が届いた場合はできる限り参加するようにしています。市を通して消毒液やマスクの配布があったり、食中毒等の注意喚起も届き、職員に周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度、運営推進会議で、身体拘束について報告し、ご意見を頂戴している。また、ケア会議で5月と11月に勉強会を行い、ウエルグループでも5月と11月に勉強会を行い、スタッフが周知・実践出来る様に心掛けている。	年2回法人主催の身体拘束に関する研修会を実施しておりホームでもケア会議等で勉強会を行い理解を深めています。フロア入口は施錠していますが外に出たい希望があれば、ユニットから出ること心がけ階段の昇降やユニット間を行き来したり、散歩や菜園まで出かけ気分転換を図っています。プリセプター制度が導入されており不適切な対応があった場合は担当が注意をしています。	

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会をケア会議で行い、どのような行為が虐待にあたるのか、虐待の種類等も伝えている。また、ニュース等で取り上げられた時も、極力発信する様にし、虐待のないケアを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修等も行ったたり、以前ご利用されていた方もいらっした為、各スタッフに説明し、理解してもらえる様、心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・利用契約書等、入居の際に必要な書類を示し、説明している。ご家族様よりご質問があった場合には説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者とは、日頃のコミュニケーションから意向をくみ取るようにし、ケア会議や申し送りノートにてスタッフも周知する様心掛けている。またご家族様等、面会時や電話連絡があった際にご要望等お聞きし、真摯に受け止め、即対応する様に心掛けている。また、契約時に苦情相談窓口の説明も行っている。	家族からの要望や意見は面会時や電話で聴くようにしており、利用者の様子については手紙や通信、面会時等に詳しく伝えできるだけコミュニケーションを図るようにしています。要望があれば都度個別に対応をしています。利用者からは日々の関わりの中で聴いており、食べたい物など食事に関する要望が多く献立等に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。職員の提案等を聞き、ご利用者にとって良いと思うものは職員と相談しながら反映出来る様にしている。	月1回のフロア毎の会議や年数回の合同の職員会議等で職員からの意見や要望を聴いています。利用者の個別対応についての意見が多く挙がり掃除に関する提案については時間帯や集中的に行う場所を決めたり、換気は1日に3回、消毒は1日に4回行うなど日々の業務に反映させています。利用者の担当や行事担当などから意見が挙がることもあります。また、年3回の個人面談や職員の様子を見ながら声をかけ随時相談を受けたり、意見を聴いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ウェルグループではやりがい・向上心を持って頂ける様OJTチェックリストを活用し、給料の査定にも反映出来る様な取り組みを行っており、個々に合わせた給与水準になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ウェルグループではOJTチェックリストを使用し、プリセプターを決め、個々に指導を行い、ケアの向上に努めている。また、法人内での研修もあり、希望者は参加、また参加後ケア会議等で発表してもらい、各スタッフの知識やケアの向上に繋がるようにしている。		

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で交流する機会を作り(学会、健康祭り、音楽祭、スポーツイベント・納会等)また、研修も開催してくれているので、交流する機会や勉強出来る場を設けてくれている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関しての問い合わせ時、また初期面談時には困っている事や不安に思っている事を傾聴し、スタッフ等にも伝達し安心して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時にご本人様、ご家族様の要望をケアプランに取り入れ、説明させて頂いている。また、他サービス等も知りたい方はグループ内外のサービスの説明を行い、信頼関係を築く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様・CM等と連絡を取り合い、必要とされている事をお聞きし、ご希望時は特養への申し込みや、他事業所への相談等行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個々の残存能力の見極めを行い、その方の出来る事(掃除・洗濯・食事準備・食器洗い)や本人が希望している事(塗り絵・散歩)を意向を伺いつつしていただいている。また感謝の気持ちも忘れずに伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際は本人の様子をお伝えし、意思疎通が困難な方も一緒に過ごして頂くようにしている。また、毎月一言通信にて1か月の様子を手紙にして郵送し、ご家族の関係の維持・向上に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方が面会に来られた際もご家族様と同様に本人の様子をお伝えしている。又、一緒に外出希望された場合は本人やご家族の許可を得て行って頂いたり、ドライブに出かけた際本人の希望にてご自宅の前を通ったりしている。	以前に住んでいた自宅付近まで職員とドライブしたり、家族と一緒に葬儀や法事、親戚の集まり等に参加することもあり、身支度や薬等出かけるまでの準備を支援しています。友人や親戚等の面会時には居室に案内し椅子やお茶の用意をするなどゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。友人から届いた年賀状は居室で利用者と一緒を読むなど馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でコミュニケーションが図れる様に席の配置等、工夫をしたり、職員が間に入り会話やレクリエーション等の提供を行う様に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居になられた方は許可を得て、スタッフもお見舞いに行けるようにしている。また、他の理由での退居の方も連絡があった際は本人等の体調を伺う様にしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との意思疎通が難しい方も増えてきたが、発言や行動・表情より本人の気持ちをくみ取るようにしている。また、不快感にならないよう、笑顔で過ごせる様に対応を心掛けている。また、意向の聞き取りが可能な方は極力意向に添える様に心掛けている。	入居前に病院や事業所、自宅等本人が暮らしている所へ出向き本人や家族から今までの生活歴や意向、趣味、特技、好きな食べ物等聞き、アセスメントシートに記載し思いの把握に努めています。入居後は日々の関わりの中で聞いたり職員が気づいたこと等記録に残し毎月のケア会議の中で話し合い、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をご家族やご本人様、ケアマネジャー様等、関係者より面接時や電話等で直接聞き取りを行い、アセスメントシートを活用して各スタッフと情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個々の過ごし方、心身状態等をスタッフが把握し、申し送りノートや口頭・ケア会議等で伝達する事で個々に合わせたケアを行っている。また、インシデントやアクシデントの情報を職員間で共有する事により、個々の状態の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご家族様・ご利用者様・関係者の方等よりご意見やご要望等を聞かせて頂き、スタッフの意見等も加えて検討し、介護計画を作成している。	初回の介護計画は1ヶ月～1ヶ月半で見直しており、6ヶ月毎に評価と簡易的なアセスメントを行い、特に変化がなければ1年毎に見直しを行っています。見直しの際は再アセスメントを行い電話にてケア会議の内容を家族に伝えと共に意向を聞き管理者と計画作成担当者が意見を出し合い介護計画を作成し、必要に応じて医師や看護師の意見を反映しています。日々の記録は計画の達成状況がわかるように記載しています。	見直しの際には管理者と計画作成担当者が話し合い次の計画を作成していますが、それぞれの担当職員等の意見も反映されるようサービス担当者会議を開き、その中でどのようなことが話し合われたのか会議録として残していかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々にファイルを作成し、日々の様子やバイタル値・排泄状況・食事・水分量・往診時の記録を残している。また、日常の変化や気づきも記録に残す事で、個別ケアに反映出来る様、ケア会議や日々のケアでスタッフ間の検討も繰り返し行っている。		

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症共同生活介護のため、多機能を有しているとは言えないが、空床もあればお試しの利用も可能である。また、2ユニットでの合同の行事を行ったり、時にはエバホームとも合同で行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には極力参加し、本人に合わせた行事に参加して頂く様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診があり、病院や薬局とも連携している。他の専門医についても受診や往診が必要な時には主治医やご家族と相談し、往診や受診して頂いている。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できることを伝え、全利用者がホームの協力医に変更しています。2週間に1回の往診があり24時間連絡可能となっており、体調が悪い場合は連絡し指示を仰いでいます。専門医への受診は家族や管理者が対応しており、紹介状を介して医師から返事をもらい口頭にて家族とも共有しています。週1回の歯科往診の他、眼科も依頼すれば往診を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いた事等を看護師に伝え、必要時には看護師からの指示通りの処置を行ったり、適切な受診や看護が出来る様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交え、病院担当者との利用者の現状や予後話し合う事で、早期の退院・早期のホームでの生活の復帰を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	大正生まれの方もいらっしゃる、高齢の方も増えてきている為、ご家族とも終末期については話をしている。現段階では皆様お元気に過ごされているが、体調がすぐれない時はすぐに連絡し、今後の対応方法を相談している。	入居時に看取り支援について家族に説明しています。重度化した場合は病院受診をしてもらい、家族の意向があれば法人の医療管理室とカンファレンスを行い、家族と話し合いながらホームで看ることもあります。家族の面会が増えたり、少しでも関わる時間をもってもらうなど協力を得ながら支援しています。看取り支援については勉強会の中で話しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成を行い、全職員への発信・周知を行っている。また、緊急時は基本管理者が行っているが、どの様に対応していくかは、指導している。		

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画の作成を行い、年に2回、エバホーム・はるみ保育園と共同で避難訓練・消火訓練を行っている。地域の防災訓練についてはされていない為、参加出来ず。また、4月に消防と合同の訓練を行い、近隣住民にもお知らせする予定であったが、コロナの関係で中止となった。	年2回昼夜想定で行い、内1回は併設の事業所や保育園と合同で通報や初期消火、階段を利用できる利用者の参加を得て避難誘導等の訓練を行っています。運営推進会議で案内や報告をしており、飲料水や缶詰、レトルト食品等を備蓄し、カセットコンロやボンベ等も準備しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者個人の人格を尊重して言葉掛けや対応方法を行える様、ケア会議等で発信し職員の意識の統一を図る様、心掛けている。	年1回接客マナーについての研修を行っており、基本は敬語で対応し呼称は苗字で呼ぶようにしています。OJTの中で教育する職員が見本となれるようにし、言葉遣い等が乱れてきた場合は管理者や職員間でも注意し、ケア会議でも発信するようにしています。入浴介助等、希望があれば同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の献立や希望のレクリエーション、ご利用者の好きな事等を把握し、内容をご本人に聞きながら自己決定を意識し、希望に添える様に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の対応を優先し、入居者に合ったペースでの介助を心掛けている。入居者個々のライフスタイルに合わせ、居室で過ごされている時には無理にリビングへ出て来て頂くのではなく、居室外からの見守りや訪室にて本人の意向で過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通の可能な方は衣類の選択が出来る様に、個々に応じて声掛けや介助を行っている。意思疎通の難しい方の場合には日々同じ服にならない様になっている。また、ヘアカラーをご希望されている方に関しては、訪問美容でホームでの対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立には利用者の好みや希望を反映出来る様、心掛けている。季節感を感じる献立や、昔ながらの行事食・誕生日の特別メニューや本人が食べたいと仰る物を注文したりしている。また、盛り付け等も出来るご利用者と一緒に行っている。	食事はその日の在庫の品を見て、利用者の好みを聞きながら献立を立て利用者にもできることに携わってもらいながら一緒に作り作り、行事の時は職員も同じテーブルを囲み一緒に食事を摂っています。菜園で採れた胡瓜やなす、オクラ、さつまいも等が食卓に上がることもあり、誕生日には希望を聞き、弁当やうなぎ丼等好みのものを食べてもらい、外食に出かける方もいます。あんみつやたこ焼き等手作りおやつなども取り入れ食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスや病歴に応じて塩分・糖分量を控えめにしたり、食事量を考慮して対応している。また、一日分の水分量を確保出来る様、個々の状態把握を行い、支援している。		

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの誘導・介助を行っている。また、必要に応じて舌ブラシ等も使用している。痛みや義歯の不具合等、治療が必要な場合はご家族に連絡し、同意を得てから歯科往診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表で昼夜トイレ誘導を行う事で、出来る限りトイレで排泄出来る様に介助をしている。トイレへの誘導・介助(特に失禁時)は他の利用者にも配慮しさりげなく行う様、心掛けている。また、入居当時はリハビリ使用であった方も、布パンツに変更したりと、本人のADLに合わせている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄記録表によりパターンを把握しタイミングなどを見計らい、個々に合わせて声かけや誘導をしています。入居後失敗が減り紙パンツから布の下着に変更した利用者も数人います。排泄用品や支援方法については都度話し合い試行錯誤しながら、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい利用者が多い為、水分を多めに摂取してもらったり、便通の良い食物を取り入れる様心掛けている。定時を含め、排便がしやすいと言われている食後にトイレ誘導を行ったり、個別の排泄パターンの把握に努め、個々に合わせたトイレ誘導も行っている。また、体操等で腸の運動を促す様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「寝る前にお風呂に入りたい」と仰る方もいらっしゃるの、夕食後食器洗い等を手伝って下さった後にお声をかけて入浴して頂いている。また、日によって「今日はいいわ」と仰ることもある為、翌日に変更したりしている。	入浴は週2回午前中に支援しており、希望があれば午後の入浴も可能で夕食後に入る利用者もいます。入浴を拒否される場合は言葉かけの工夫や職員や時間を変更したり、二人介助をしながら無理のないよう入ってもらっています。柚子風呂や入浴剤を使用したり、職員と会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や掃除・歩行等、日常生活に沿った活動を通じ、個々に合った生活リズムを作る様にして、安眠に繋げている。また、日中も傾眠されていたら、少し午睡して頂いたり、自身で居室で休まれる方もいるので、室温調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用・容量については医師の指示等を確認し支援にあたっている。また、医師と相談しながら、服薬の変更・調整等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除(モップ掛け)や洗濯(干し・たたみ)食事の盛り付け等、利用者の能力に応じて役割を分担し、行っていける様に援助している。		

フレンド平城山・山城(平城山)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くで買い物等、一緒に行ってもらっている。また、季節に応じて外出の計画を行い、参加して頂いている。自治会の催し(夏祭り)や地区の清掃活動にも職員と共に参加して頂いている。(2月下旬以降はコロナの関係により、外出は行っておらず)	コロナ渦で外出が減っていますが日々の散歩は継続しています。それまでも天候が良ければ散歩や買い物に出かけており、地域の祭りや清掃活等にも参加しています。初詣、桜やあじさい等の季節の花の見学の他、ホームの菜園まで出かけた。近隣の動物病院前に置かれているベンチで外気浴をすることもあります。また、個別で外出に出かけたり家族と外出する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	家族様相談の上、利用者のお金を預かり、管理している。また、自身で持っておられる方もいらっしゃる為、ご利用者間でやり取りしない様に注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙や葉書が届いた時は、本人に見てもらい、自室で管理して頂いている。また、電話の取次ぎもさせて頂き、会話ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を感じて頂く為に、机やソファ等をリビング・食堂に配置し、気心の知れた方と団らんの際は確保している。四季折々の飾り等を配置し、季節を感じて頂いている。	共有空間には利用者と一緒に作成した壁画を月毎に変更したりフラワーアレンジメント等を飾っています。常に換気を心がけ、室温にも留意し過ごしやすい環境を作ると共に手すりやドアノブ、扉等1日に数回消毒し、利用者と一緒に毎日掃除を行い清潔保持にも努めています。テーブル席はレクリエーション時や利用者同士の相性等により変更しており、ソファや一人掛けの椅子も多く置かれ思い思いの場所でゆったりと過ごせるよう、配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂など、利用者個々に好きな場所で気の合った方と過ごせる様に、フロアの配置の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで慣れ親しんだ家具や小物等を持参してもらい、本人の好きなように配置してもらい、利用者個々に心地よい空間を作る様、援助している。	入居時に使い慣れた小さい筆筒、スケッチブックなどの絵の道具、本やアルバム、ギター、縫いぐるみ、化粧品等を持参され、本人が思い思いの場所に配置をしています。状況により転倒リスク等考慮しながら職員が配置しています。日々、換気や利用者と一緒に掃除を行い快適に過ごせる居室作りに配慮しています。希望があれば布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーとなっており、手摺を伝う事でほぼ全ての場所に移動出来る様になっている。各居室・トイレ・浴室等、表記して分かりやすくしている。		